

## 新年を迎えて

副会長 山本 耕平



新年あけましておめでとうございます。

昨年は日本トイレ協会設立30周年にあたり、記念事業の実行委員長として、5月の記念フォーラムと総会、11月の第31回全国トイレシンポジウムを担当いたしました。おかげさまで、記念フォーラム、シンポジウム共に盛会のうちに終えることができ、肩の荷を下ろすことができました。実行委員の皆様はじめ、ご協力頂きました諸氏に厚く感謝申し上げます。

また高橋会長のリーダーシップの下で、「トイレ学大事典」が刊行されたことも、30周年の節目として大きな出来事でした。

昨年は政府が「日本トイレ大賞」を募集しましたが、まさか国がこのような賞を募集するとは思ってもよなことでした。残念ながらトイレ協会自体は賞の趣旨にはかなわず、受賞することはできませんでしたが、会員や関係者の中で受賞された方も多くおられます。日本トイレ協会の設立が日本のトイレ改革元年であるとすれば、30年の節目に国がトイレのことを正面から取り上げたという点において、まさに画期的な出来事であったといえるでしょう。

第31回目となる全国シンポジウムのテーマは「世界に発信する日本のトイレー2020年のその先へ」としましたが、講演して頂いた経産省の関澤氏からは、日本のトイレは世界に誇るコンテンツであるという話がありました。そのことはうれしい事実ではありますが、川内先生の講演や分科会をはじめ各セッションの議論では、まだまだ設計や機器の技術面、維持管理や情報などのサービス面において改善や工夫の余地は大きいということを知られました。日本トイレ協会の社会的役割はまだまだ続くということでもありましょう。

シンポジウムで提案しキックオフを宣言いたしました。2020年のその先に向かっていくために、「グッドトイレ推進運動」と名付けた活動を展開していきたいと考えています。日本トイレ協会の成果のひとつとして、グッドトイレ10、グッドトイレ選奨という優れたトイレを顕彰する賞を設けたことがあります。国の日本トイレ大賞より30年も昔からやってきたことであり、先進的な事例を掘り起こし、社会に周知する役割を果たしてきました。これを恒常的な仕組みとし、ハードとソフトの両面から一定レベル以上の公共トイレ（公衆トイレだけでなく駅や高速道路、道の駅、まちの駅、商業施設のトイレなど不特定多数が利用できるトイレ）をグッドトイレとして登録し、普及させていこうということが一つのねらいです。同時にオリ・パラに向けて、「トイレでおもてなし」の充実も図っていききたいと考えています。

シンポジウムで参加者のご賛同をいただきましたが、まだ具体的な活動方針が決まっているわけではありません。有志による定例会を持っておりませんが、今後はトイレ協会の会員以外にも賛同者を募り、公共トイレ全体のレベルアップをはかるムーブメントを起こしていきたいと考えています。ぜひ皆様のご参加をお待ちしております。

＜(株)ダイナックス都市環境研究所代表取締役社長＞

## 第31回全国トイレシンポジウム 報告

実行委員会事務局 石垣 歩

＝世界に発信する日本のトイレ－2020年のその先へ＝

<㈱ダイナックス都市環境研究所>

### ■ 日時・会場

2015年11月14日(土) 曇のち雨

東洋大学白山キャンパス

東京都文京区白山5-28-20

1号館1305号教室(全体、分科会1、グットトイレ選奨関連)

1号館1402号教室(分科会2)

■ 主催 日本トイレ協会

■ 共催 東洋大学、全国まちの駅連絡協議会

■ 後援 17団体

経済産業省、国土交通省観光庁、東京都教育委員会、

日本科学未来館、(一社)日本建築学会、(公社)日本建築家協会、(一社)日本医療福祉設備協会

医療福祉環境エビデンス研究会、都市環境デザイン会議、(一社)日本医療福祉建築協会、(公社)国際観光施設協会、(一財)自然公園財団、(一社)日本福祉のまちづくり学会、NPO 法人地域交流センター、全国管工事業協同組合連合会、NPO 給排水設備研究会、(一社)日本能率協会(順不同)

■ 協賛 14社

TOTO株式会社、株式会社LIXIL、(一社)日本レストルーム工業会、日野興業株式会社

株式会社総合サービス、日本カルミック株式会社、株式会社アメニティ、株式会社井戸屋、桜木神社

湘南ステーションビル株式会社、株式会社オーイケ、株式会社シミズオクト、柏書房株式会社、

住友ベークライト株式会社(順不同)

■ 参加者 164名

内訳 講師・登壇者 13名、実行委員・スタッフ、協会理事 32名

会員 92名 会員以外の参加者 14名 自治体・大学関係 13名

■ 運営体制 & 経過

あいにくの悪天候であったが、昨年に引き続いて事前申込みを行ったので、参加者はスムーズに入場出来た。今回は山本実行委員長(当協会副会長)が社長を務める㈱ダイナックス社員が実質的な実行委員の役割を果たしたので、会場設営、受付、分科会の進行など全体の進行が極めて順調に進行した。シンポジウム終了後の「トイレ学大事典」出版記念を兼ねた交流会も出版元の富澤柏書房社長や執筆者の名古屋工業大学の小松先生、週刊文春トイレ探検隊の坂上隊長(東京都市大学教授)など84名の参加があり、空前の盛り上がりの中に終了した。

■ 次第

総合司会 白倉 正子 日本トイレ協会理事

開会挨拶 高橋志保彦 日本トイレ協会会長

趣旨説明 山本 耕平 第31回全国トイレシンポジウム実行委員長(日本トイレ協会副会長)

キーノートスピーチ 「世界に発信する日本のトイレ文化」

川内 美彦(東洋大学人間環境デザイン学科教授 日本トイレ協会理事)



高橋会長の開会挨拶

講演 「衛生設備機器に関する経済産業省の取組み」  
関澤 和広（経済産業省商務情報政策局日用品室室長補佐）

報告 「グッドトイレ推進運動とトイレ学大事典発行について」  
山本 耕平（日本トイレ協会副会長）

研究発表・プレゼンテーション・セッション（日本トイレ協会会員による研究発表）

コーディネーター 白倉 正子（日本トイレ協会理事）

- 1 トイレで手を組むということ！？ 竹中 晴美（みんなにやさしいトイレ会議実行委員長）
- 2 福祉バイオトイレカーによる外出支援～身体の不自由な高齢者や障害者が幸せを享受できる社会へ  
八木 正志（優成サービス株式会社 代表取締役社長）
- 3 農業女子的トイレ 岩月こずえ（株式会社レンタルのニッケン 営業開発部）

「グッドトイレ選奨」応募作品のプレゼンテーション

コーディネーター 浅井佐知子（日本トイレ協会理事）

休憩 グッドトイレ選奨投票

分科会

- 1 トイレニーズの多様化とノーマライゼーションを展望する

コーディネーター 小林 純子（日本トイレ協会副会長）

話題提供者 奥山 葉月（NPO 自立生活センター立川 理事長）

原 利明（鹿島建設株式会社 建築設計本部チーフアーキテクト）

杉崎 慎弥（朝日新聞社 GLOBE 編集部記者）

市川 昌昇（京王電鉄株式会社 開発推進部課長）

- 2 これからの「日本のトイレ品質」～世界に発信する新たなトイレの技術、サービス、ビジネスを展望する。

コーディネーター 軍記 伸一（日本トイレ協会理事）

話題提供者 山本ゆき子（TOTO(株)東京プレゼンテーショングループ）

福田 義一（全国まちなちの駅連絡協議会 鹿沼市役所）

林 英俊（群馬県産業経済部観光局観光物産課）

金子 健二（NPO 法人 Check 代表理事）

パネル討論 世界に発信する日本のトイレ～2020年のその先を展望する

コーディネーター 山本 耕平（第31回全国トイレシンポジウム実行委員長  
日本トイレ協会副会長）

パネリスト 小林 純子（第1分科会コーディネーター）

軍記 伸一（第2分科会コーディネーター）

福代梨里花（立教大学経営学部学生 日本トイレ協会学生会員）

高橋未樹子（コマニー株式会社 日本トイレ協会会員）

木内 雄二（日本レストルーム工業会衛生設備機器技術部会）

■ グッドトイレ選奨 応募15点 (選奨5点 特別奨2点)

投票者数 115名

審査委員 (会長、副会長、理事、事務局長)

審査方法 当日シンポジウム参加者による投票と、事前の審査委員の投票を合せて、最終的に当日の審査委員会で決定した。

No	グッドトイレ選奨
1	緑ヶ丘エントランススペース公衆便所 (株)国建 鮫島拓 宮里睦子
2	移動ができる身体の不自由な方や高齢者用トイレ「福祉バイオトイレカー」 優成サービス(株) 代表取締役社長 八木正志
3	トイレ清掃状況の定量的評価および清掃現場へのフィードバックによる改善 中日本ハイウェイ・メンテナンス中央(株)
4	お年寄や女性に配慮したトイレ コマニー(株) 高橋未樹子
5	東京オリンピックに向けたトイレの多言語化対策 中日本高速道路(株)東京支社環境・技術管理部 環境・技術チーム 山本浩司 伊藤佑治
No	グッドトイレ特別奨
1	やまた幼稚園の幼児用トイレ やまた幼稚園
2	道の駅・まちの駅「パティオにいがた」のトイレ創り 見附市長 久住時男

### グッドトイレ選奨の講評

日本トイレ協会グッドトイレ選奨委員会 審査担当 川内 美彦 (日本トイレ協会理事)

今回の応募作品15点は、建築としてのトイレ、まちづくりの核としてのトイレ、維持管理、災害時対応、アクセシビリティ (バリアフリー)、基礎的研究、既存の改修など、多岐にわたっています。

その中から審査員とトイレシンポジウム参加者の投票によってグッドトイレ選奨は得点上位のもですが、特別奨 (入選) は得点で選奨作品とほぼ遜色がなかった上に、審査員からの評価が高かったものが選ばれています。これらの選定作品もさまざまな分野にわたっており、トイレと云うものの多様さ、奥深さを感じられるものとなっています。

#### 【グッドトイレ選奨】

- ・「緑ヶ丘エントランススペース公衆便所 (株)国建 鮫島拓 宮里睦子」は建築としての機能と美しさを兼ね備えたトイレで、プレゼンボードも十分に洗練され、ひととき美しく仕上がったものとなりました。
- ・「移動ができる身体の不自由な方や高齢者用トイレ「福祉バイオトイレカー」 (優成サービス(株)代表取締役 八木正志)」は八木氏の熱意と工夫が見る側にも伝わる作品で、災害対応、環境対策、アクセシビリティなど、現代のトイレが注目している諸問題への一つの解決策として注目されました。

- ・「トイレ清掃状況の定量的評価および清掃現場へのフィードバックによる改善」(中日本ハイウェイ・メンテナンス中央(株))はわが国の公衆トイレの特徴である高度な維持管理の成果が可視化され、現場の努力がよく伝わる内容でした。
- ・「お年寄りや女性に配慮したトイレ(コマニー(株)高橋未樹子)」は検証実験を基にした実用性のある基礎研究であり、対象がお年寄りや女性という現代的な問題意識に根ざしていることで幅広い共感を得ました。
- ・「東京オリンピックに向けたトイレの多言語化対策(中日本高速道路(株)東京支社環境・技術管理部環境・技術チーム 山本浩司、伊藤佑治)」も実用性を見据えた研究であり、2020年の東京オリンピックに向けての社会的な要請の高い分野です。

### 【特別奨】

- ・「やまた幼稚園の幼児用トイレ(やまた幼稚園)」は、近年注目が集まっているオープントイレをただオープンするだけでなく、子供たちの生活空間のなかに積極的に投入した作品であり、今後のさらなる進化が期待できます。
- ・「道の駅・まちの駅「パティオにいがた」のトイレ創り(見附市長 久住時男)」はまちづくりの核としての道の駅・まちの駅のほぼ中央に設えられたトイレであり、トイレを中心とした人の交流やボランティア活動といった「コト」を生む起点となっています。

以上の7作品の他にも、さまざまな問題意識に裏打ちされた応募作品を見ると、トイレは社会を写す鏡だと改めて実感させられます。世界一と云えるかどうかはともかく、極めて高度に発展しているわが国のトイレがさらなる高みを目指すために、皆様の更なるご尽力をお願いするとともに、手間を惜しまずパネルを制作して応募して下さった皆様に深く御礼申し上げます。(東洋大学教授)



緑ヶ丘エントランススペース公衆便所



移動ができる身体の不自由な方や高齢者用トイレ  
「福祉バイオトイレカー」



トイレ清掃状況の定量的評価及び清掃現場へのフィードバック



お年寄りや女性に配慮したトイレ



東京オリンピックに向けたトイレの多言語化対策



やまた幼稚園の幼児用トイレ



道の駅・まちの駅「パティオにいがた」のトイレづくり



グッドトイレ選奨のプレゼンテーション風景

（株）井戸屋 綾久 社長

【当日の様子】

＜趣旨説明＞



山本耕平 実行委員長

＜キーノートスピーチ＞



川内美彦 日本トイレ協会理事

＜講演＞



関澤和広 経産省日用品室室長補佐



プレゼンテーションセッション 竹中晴美氏



プレゼンテーションセッション 八木正志氏



プレゼンテーションセッション 岩月こずえ氏



第一分科会



第二分科会



パネル討論



小林純子 副会長



軍記伸一 理事



山本耕平 副会長



真摯な質問



会場風景



鎌田元康 副会長の総括



交流会乾杯



坂上遼 トイレ探検隊長



手を繋ぎ輪になって



富澤凡子 柏書房社長



今回・第31回の全国トイレシンポジウムは、「世界に発信する日本のトイレ—2020年のその先へ—」のテーマで開催された。高橋志保彦会長から、当協会が設立されてから30年を経過したこと、それを記念し「トイレ学大事典」を出版したこと、また本年度には内閣官房すべての女性が輝く社会づくり推進室主催のもと、日本トイレ大賞の募集・発表が行われたことの紹介、実行委員長である山本耕平副会長から、設立当初事務局長を務めていた経験からの当協会の誕生秘話を交えた上での「30年の軌跡」を発行した報告などの内容を含む開会挨拶の後、午前中にキーンノートスピーチ、講演、当協会の活動報告、研究発表及び「グッドトイレ選奨」応募作品のプレゼンテーション、午後に同時並行開催の2つの分科会、両分科会の概要報告と今回のテーマに関するパネル討論、参加希望者による交流会と続いた。

「世界に発信する日本のトイレ文化—東京オリンピック・パラリンピックに向けて—」と題する川内美彦東洋大学教授(当協会理事)のキーンノートスピーチでは、車いす対応トイレの歴史に始まり、国際パラリンピック(IPC)のアクセシビリティガイドの紹介、今後のトイレの在り方など、ご自身も車いす生活者であることからの貴重な話を聞け、「衛生設備機器に関する経済産業省の取組」と題する関澤和広様(経済産業省)の講演では、温水洗浄便座規格の国際標準化動向、最近話題となっている事業継続計画(BCP)、プッシュ型支援及び政府開発援助(ODA)でのトイレ関連課題などについて貴重な情報を得ることができた。山本耕平副会長による当協会の活動報告では、挨拶で紹介された内容の他に、現在検討が進められている「トイレでおもてなし「グッドトイレ」推進運動」の紹介、会員の方々への協力要請がなされた。

研究発表・プレゼンテーションでは、公衆トイレ改善の取組を、行政と手を組むことにも力を入れ実行している竹中晴美様(「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員会委員長)、福祉バイオトイレカーの開発を行い、その車を用いての外出支援を進めている八木正志様(優成サービス株式会社)、農業に携わっている女性の方々とともに、働く女性に優しいトイレの製品化を進めている岩月こずえ様(株式会社レンタルのニッケン)から発表があり、続いて昨年より多い15件の応募があったグッドトイレ選奨応募者によるショートプレゼンテーションを行った後、昼食・休憩となった。

午後には、前述のように2分科会が同時並行で開催された。先天性骨形成不全症を患っており、夫君も障害者であり、かつ育児を行っている立場での現状トイレの問題点を奥山葉月様(自立生活センターセンター・立川理事長)から、視覚障害をお持ちでありながら建築設計の仕事をし、トイレの環境・計画のあるべき姿を追い求めている仕事ぶりを原利明様(鹿島建設株式会社)から、公共空間で初めて1人となる場所が学校のトイレであるとした上で、“トイレ弱者は世界共通?”という話題を杉崎慎弥様(朝日新聞 GLOBE 編集部記者)から、最近の商業施設のトイレ動向を市川昌昇様(京王電鉄株式会社)からお聞きした後、小林純子副会長をコーディネーターとして「公共トイレのニーズの多様化とノーマライゼーションを展望する—急速な進化を遂げた日本のトイレその現実と課題—」をテーマに話し合われたのが分科会1である。私が出席できなかった軍記伸一理事をコーディネーターとした分科会2では、「—これからの「日本トイレ品質」—世界に発信する「新たなトイレ技術、サービス、ビジネスを展望する—」を全体テーマとし、山本ゆき子様(TOTO株式会社)による「インバウンド観光と海外に発信する日本のトイレ品質」、福田義一様(全国まちの駅連絡協議会理事/鹿沼市役所)による「観光拠点としての「まちの駅」とトイレ」、林英俊様(群馬県)による「ぐんまビジタートイレ認証制度」、金子健二理事による「ITを活用したハンディキャップトイレの地図情報提供サービス」と題した話題提供の後、活発な討論が行われたとお聞きする。

山本耕平副会長をコーディネーターとした最後の分科会報告とパネル討論は、上記シンポジウムテーマ

「世界に発信する日本のトイレ—2020年のその先へ—」のもと、同時並行で行われた2分科会のコーディネーターによる分科会の総括、福代梨里花様(立教大学・学生会員)による「インバウンド対策への提案」、高橋未樹子様(コマニー株式会社)による「2020年のトイレを考える」、木内雄二理事による「世界に発信する日本のトイレ～2020年その先を展望する～」の話題提供の後、活発な意見交換が行われた。

以上述べてきたように、当シンポジウムの内容は多岐にわたっており、私としては様々な立場の方からの多くの意見が聞け、学ぶことも多かった。シンポジウム後、急遽行ったアンケート調査でも、内容に満足された方が多いという結果が出ており、参加した皆様も同様に感じていただけたのではと思っている。

最後になるが、会場をご提供くださった東洋大学様、シンポジウムに共催、後援、協賛くださった各団体、実行委員会の皆様をはじめとし、ご協力くださった方全員に感謝したい。(東京大学名誉教授)

## 第5回トイレ「洗流」大募集！ 選考結果

北海道から九州まで 全1305件作品の応募(7歳～90歳)

「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員長

竹中 晴美(長崎市在住)

この度は、第5回「トイレ洗流」大募集に「うんとこさ」ご応募を頂き、メンバー一同、心よりお礼を申し上げます。応募総数は、昨年度の約3倍！1,305作品！うれしい悲鳴をあげながらも、最後の駆け込み参加に有難いやら苦しいやら？お陰様で選考会では、応募数の多さにも大変苦しみました。北海道、東北、圧倒的に多い関東、関西、九州まで、年齢も7歳から90才まで。中でも80才以上の方は27名、90代は3名！これは老後の励みになるなど？感心いたしました。某大手メーカーの何方通には負けますが(当たり前)今回は「公募ガイド」に掲載頂いたこともあり、毎日、郵送で「うんとこさ」届きました。何故か今年は、圧倒的に男性優位の句となりました。男の哀愁が大賞を獲得、しかしお父さんは相変わらず悲哀感、おばさんや女子力のディープさなど、楽しい作品が多く(委員長個人的にはペットロスにほろり)やはり出ました「五郎丸ポーズ」には特別賞を用意。

トイレの奥深さと楽しさにハマられた皆さま方には、まさに「うんとこさ」出して頂き心よりお礼を申し上げます。また下記の学校関係の先生方には、トイレ文化の発展のために、関心を持って頂き、有難く心より感謝申し上げます。

- 芦屋市クラーク記念国際高等学校ひとクラスさま
- 長田小学校1年2組の小さなみなさん
- 亀戸中学校ひとクラスさま

以下 受賞作品です (敬称略)

- つぶやき大賞・・・1名

金沢のトイレの神様御堂付き&オリジナルトイレトペーパー

退職日 行きつけトイレに 礼をする



●埼玉県さいたま市 ペンネーム 四季 71歳 男性

書評

日本の礼を知る男子たるもの、こうありがたい……。満場一致での選出でした。きっと退職された日、暑い日も寒い日も何かとお世話になった「いきつけのトイレ」、いろいろな苦勞を知っているトイレの空間に、思わずお礼を言いたくなられたのでしょうか。本当に素晴らしいです。私たちも頭を下げたくなりました。「礼！」

●つぶやき大賞・・・子供部門・・・1名様

リクシルオリジナルグッズ&オリジナルトイレットペーパー

## 最近はやせつけないんだ 細菌は

埼玉県さいたま市立土屋中学校文芸部 阿久津 優羽 12歳 男子(多分)

書評

某大手トイレメーカーのリトルベン君が、つぶやいているような、なんとも可愛い句ですね。ダジャレも大人が言うと流されそうですが、中学生の素直な気持ちから出た言葉には力があります！確かに最近の進化したトイレは、輪じみとか、細菌をよせつけませんもの(笑)

●つぶやき優秀賞・・・3名

リクシルグッズ&オリジナルトイレットペーパー

## 次の人 気遣うトイレこそ 和式

千葉県長生郡 ペンネーム やじろペー 50歳 男性

書評

これは、少し解説が要るかなという選者の声もあり。次の方へ・・・とあってキレイに使う気遣いこそは、和式イコール日本式スタイルであるということ。言い得て妙です。模範的なマナーアップ標語としてぜひ使わせて頂きたいですね。

## 運休か それとも 特急けさの便

群馬県太田市 ペンネーム 藤むらさき 68歳 男性

書評

毎朝、心配するのは、みな同じなんですね。ちゃんと出ても確かに特急は、怖い！？しかし運休されるともって怖い？便(びん)と便(べん)をひっかけて、出して頂きメンバーも大笑いの句をありがとうございます。

## 定年後 男とトイレ 磨いてる

東京都府中 ペンネーム 掃除夫 83歳 男性

書評

実は評価が少しわかれまして。定年後、トイレを磨くように奥さんに言われたのではないか？可哀想ではないか？いや、ともあれ83歳の方、素晴らしいです、模範です。これからも、ますます男を磨かれますように。(トイレも)

●つぶやき佳作・・・7名 オリジナルトイレットペーパー

トイレには 悔し涙も 流れてる (島根県 角森玲子)

トイレでは もれなくみんな 哲学者 (宮城県石巻市 木立慈雨)

海外のトイレで分かる背の低さ (水戸市 若林正伸)

トイレまでついてきた子が親離れ (茨城県桜川市 海老原順子)

この次が 私の番で発車ベル (埼玉県鴻巣市 松川幸江)

今朝もまた個人情報てんこ盛り (東京都町田市 ひとみちゃん)

腹痛で 思わず神に 懺悔する (第二亀戸中学校 手塚裕貴)

### ●特別(トレンド)賞

五郎丸ポーズで 早く出ろといい (札幌市南区 刹那)

### ●子供部門特別賞

この店の ぼくはトイレの リピーター (長崎県諫早市 しょうえい)

### 次点……21 作品

婚活をあきらめ腸活はげむ姉 (熊本県 しらぬいまちこ)

幾たびの涙の訳を知るトイレ (都内豊島区 カジ)

昔流センチに憚りご不浄と (山口県 ボケ爺さん)

長寿の道もトイレから (大阪市 飯田 優子)

トイレ借り 住み人思う 人となり (南島原市 平 湯 寿 志)

汚さない 街のトイレは 街の顔 (都内板橋区 みらいむ)

パワハラを 水に流して 席に着く (東京都西東京 はぐれ雲)

合コンで作戦本部と化すトイレ (三重県伊賀市 橋)

トイレこそ 俺の書斎だ 紙とペン (大阪府豊中市 大阪のアンちゃん)

帰国して トイレで実感 日本之美 (熊本市 チデンシンヤ)

トイレってうんちの旅の出発点 (大阪府池田市 しんぷうめん)

旅先の トイレで街が 好きになり (神奈川県川崎市 あゆむ)

親をまねトイレを磨くもみじの手 (名古屋市 えみりい)

食ったほど出る気配なく秋の暮れ (熊本市 古子)

ノズルよりお尻動かす方が楽 (横浜市 アベチャン)

ウンチクは 朝刊持ちこむ トイレから (兵庫県加西市 うんちゃっちゃん)

手をかざす 水が流れず曲流れ (座間市 おんちゃん)

はよ代われ!! 奴はそこまで きてるんだ!! (兵庫県 パンツェッタ・てつや)

怒りまで トイレに流して 「くそったれ!」 (東京都狛江市 小川かおり)

ネットより ディープな情報 女子トイレ (福岡市 トイレンジャー)

相棒は むかし新聞 今スマホ (大阪市 ルートつつみ)

ベスト青梅は、太田興業株式会社(現：株式会社ベスト)青梅工場として1967年に操業開始、ベストグループの研究・開発・製造部門として1987年に分社化いたしました。住まい・建築に関する良心的な商品を提供するために、たゆむことなく開発・改善を続けております。

会社概要

代表者：代表取締役社長 太田剛彦

操業開始：1967年 設立：1987年

資本金：7,500万円 売上高：15億円

従業員数：約80名

所在地：東京都青梅市新町8-9-1

事業内容：建具金物及び産業機器用製品の設計・製造

取扱品目：住宅用商品、ラバトリー商品、ドアシステム、産業機器用製品、他

主なラバトリー商品：下記ロック類、ヒンジ、戸当り、フック、サポート等金物を含むドアシステム



No.618W 表示付ボルト  
SIAA 認定の抗菌製品



No.1612SL 表示付ボルト  
定番スタンダードモデル



No.610NH 打掛錠  
開戸引戸兼用



設計～試作～試験～部品加工～組立～梱包～出荷まで、社内で一貫生産



有限会社 **ベスト** 青梅



<(有)ベスト青梅 代表取締役社長 太田 剛彦>

# 福祉バイオトイレカー

優成サービス株式会社  
代表取締役 八木 正志

## 【はじめに…福祉バイオトイレカー開発の経緯】

警備会社である弊社では、警備業及び道路規制業務遂行にあたり警備員・作業員のトイレ問題に直面しました。短期間の工事では仮設トイレの設置はありません。作業員は近隣の店舗や公衆トイレを探してトイレを借りています。また、土木工事では作業着や靴がセメントや泥で汚れているため、キレイな店舗を汚してしまうなどでトイレを借りることを躊躇してしまうことや、トイレを探すために持ち場から離れる時間が増える、トイレに行く回数を減らすために飲食を控えるなど作業員への精神的・肉体的負担がありました。そのため、脱水症状や膀胱炎等の病気を誘発する恐れがありました。

仮設トイレは、設置から撤去までに日数がかかり臭いも発生する為、近隣に迷惑がかかります。そこで作業員への負担を減らすため、トイレが簡単に移動・撤去ができる方法はないかと、トイレ付き車両の研究開発を始めました。そして規制車両にバイオトイレを載せた「移動式バイオトイレ付道路規制車両」が平成20年に完成。バイオトイレを使用することで内閣府による「一般廃棄物の処理及び清掃に関する法律政令施行令一般廃棄物の収集・運搬の基準」をクリア、おがくずが糞尿を一次処理する為、し尿処理の必要がなく公道を走ることが認められ、作業員の負担が軽減されました。



移動式バイオトイレ付規制車両開発

移動式バイオトイレ付道路規制車両を開発後、警備業務を通じて障がい者が外出先でのトイレに困っていることを知り、福祉の分野でも活用できるよう車いすのまま乗降できるリフトを設置した福祉バイオトイレカーを平成22年までに3台開発。

高齢者や障がい者の為に省資源・環境保全を図る福祉バイオトイレカーを開発したことが評価され、平成23年6月には、えびな環境大賞奨励賞を、平成23年7月には、第2回かながわ産業Navi大賞奨励賞を受賞しました。



福祉バイオトイレカー1号車



福祉バイオトイレカー2号車



福祉バイオトイレカー3号車

電気設備や上下水道を必要としない特長を活かし、平成 23 年の東日本大震災の際には震災 10 日後から約 1 年半にわたりトイレ支援を行い、その経験から震災時にも安心な機能を備えた福祉バイオトイレカー4号車を製作。

平成 23 年 8 月には、被災地域復旧・復興に向け多大な貢献・取組を評価され、経済産業大臣賞を受賞しました。

平成 24 年 5 月には、国土交通省 北陸地方整備北陸技術事務所にて国土交通省所有の真空式装置のトイレ車両とともに、弊社の福祉バイオトイレカーの内覧会を実施。福祉バイオトイレカーは国土交通省の監修を受けた車両です。



福祉バイオトイレカー4号車

これまで障がい者の屋外トイレの問題に真剣に向き合った移動できる車両は皆無であり、弊社の福祉バイオトイレカーは他にはないものです。都道府県の条例をクリアし公道を走行できる合法的な移動式トイレ車両です。また、この車両は「特殊用途車両」の車両ナンバーを取得しています。

### 【福祉バイオトイレカーの特徴】

●便器内に入っているおがくずに含まれる土壌細菌の力により排泄物の 90%以上の水分を約 60 度のヒーターをあてながら攪拌することで水分を飛ばし、また排気ファンを効率良く使用する事により、臭いの問題を解決。排泄物の残り 10%とトイレトーパーは土壌細菌により繁殖及び分解によりし尿処理が不要です。また、使用後のおがくずは有機堆肥として再利用が可能です。

(バイオトイレは、北海道旭川市で開発された「おがくず」を使用したバイオトイレです。国土交通省の新技术に認定 (NETIS 登録番号 HK040017-A) されたトイレで、おがくず以外のバイオ菌を散布する必要がありません。)



●全車両の屋根部分に太陽電池 (ソーラーパネル) を搭載し、排泄物処理時のヒーターや排気ファン、室内の蛍光灯にも使用でき、環境にも配慮した設計です。



●車内で車いすの方向を変えられるよう広い空間を確保しています。

また、乳幼児や障がい児のおむつ替えができるよう、ベビーベッドの設置やオストメイトの方も利用できます。



●電動車いすでも利用できるよう 300kg 耐久性のあるリフトを使用し、車椅子ユーザーと介助者が同乗しても乗降が可能です。

●冷暖房完備により、排泄に時間がかかる身体の不自由な方や介助者も快適にトイレが使用できます。

冷暖房を必要とする際は、外部電力（100V）や発電機（常時使用できるように搭載）があることでどこでも使用でき、夏場の高温時には「熱中症予防」にも効果があります。



●仮設障がい者用トイレとは違い設置が容易であり、しかも尿処理が不要なため、必要な場所へ設置し即日撤去可能です。

●片麻痺など障害によって、稼動範囲が狭い場合もあるので、移動ができるペーパーホルダーやトイレトペーパー自動カット機などを導入した車両もあります。

●マラソン大会などでも使用できるよう、AEDを完備している車両もあります。また、運転手はホームヘルパー2級やサービス介助士の資格を取得、さらにAED講習を受講しています。



●福祉バイオトイレカーの運転手が介助者、清掃員、管理者を兼務します。常にトイレにスタッフがいることで、都度の清掃やトイレの利用者とコミュニケーションを図り臨機応変に対応します。

### 【身体の不自由な方のトイレ事情】

駅や商業施設などが隣接しない場所はバリアフリー新法適用外の場所でもあります。そのような場所で屋外イベントを開催の際、障がい者用トイレがない、もしくは不足している場所に、環境にやさしく利用者にやさしい機能を備えた福祉バイオトイレカーを設置し、身体の不自由な方・視覚障がいの方・オストメイトの方など、障がいのある方が安心してトイレを利用し、屋外の活動に積極的に参加、外出の機会を増やすことにより、より豊かにより潤いのある生活を営める環境を築くことができるようなトイレでありたいと考えます。

また、一般家庭や商業施設は洋式トイレが主流ですが、屋外イベントに設置される仮設トイレは『和式トイレ』がほとんどです。現代の子供たちは、和式トイレを利用する場が少ないため、男女問わず幼児から高校生まで和式トイレを利用できない子供たちが多くいます。このことから多くの方が、多目的トイレに設置してある洋式トイレを利用することを望みます。その結果、『人が多く集まる時には、普段は利用の少ない多目的トイレも大混雑』してしまい、車いすユーザーや介助の必要な方々のトイレ事情（排泄に10分～20分時間を要す）を知らない健常者から非難を浴びるという事態も発生しており、特に女性の車いすユーザーは外出を躊躇う方が多くいます。

身体の不自由な方のトイレ環境を整えることで、外出できるきっかけになり、家族や施設関係者なども外出することで、ココロもカラダもリフレッシュできると思います。



和式トイレが使えず、洋式トイレに並ぶ子供達

介護する方々も、リフレッシュを兼ねた外出ができて、『楽しかった！また出かけよう！』という気持ちにもなります。

私たちはできる限り、車いすユーザーや高齢者、介助者のご要望に近づけるよう日々、利用者とコミュニケーションを図ることで、よりよいトイレを開発するため邁進しています。

### 【今後の展望】

2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。このような規模の大きなイベントの際には、たくさんの人々が集結する為、その分トイレも必要となります。既存のトイレでは足りない時や仮設トイレが設置できない場所、人々の動線に合わせて移動ができ、任意の場所へ設置できるこのバイオトイレカーの必要性は増すと思われます。オリンピックへ向けバイオトイレカーの台数を増やしたとしても、その後の活用方法として、例えば47都道府県それぞれに所有していただき、花火大会やスポーツ大会等のイベント時に活用することにより、障がい者や高齢者がトイレの心配なく参加でき、健常者と共存する社会を構築することができます。

電気設備や上下水道を必要としないトイレカーの特長を活かし、災害時にも活用することが出来ます。東日本大震災時、被災地でのトイレ支援活動の経験から、ライフラインが分断された地域でのバイオトイレカーの稼働は実証されており、トイレカーを所有することが各都道府県の減災への取り組みにもなります。

機動力のある清潔なトイレ空間を提供し、外出を支援することにより、身体の不自由な高齢者や障がい者が幸せを享受できる社会になるよう、よりよいトイレを提供していきたいと考えます。



#### 《利用者の声》

- ◇木の香りがして(トイレが)臭くなかった。
- ◇スタッフが常駐しているから安心して利用できます。
- ◇福祉バイオトイレカーの設置してあるイベントではトイレの心配なく飲食を楽しめます。
- ◇授乳やおむつ替えにも使わせてもらえるので助かります。

**福祉バイオトイレカーでみんなを笑顔に！**

昨年の11月に、東京ビックサイトにて第2回「トイレ産業展」が開催されました。そこで当協会として初めて、協賛の立場で関わることができました。具体的には、①ブース出展、②講演会場での講師紹介等を行いました。会場では有意義な交流ができました。そこで当日の様子をご報告します。

#### [開催概要]

- ◇期日：2015年11月25日（水）～27日（金）
- ◇場所：東京ビックサイト（東京・有明）東6ホール
- ◇主催：一般社団法人日本能率協会
- ◇協賛：日本トイレ協会、（一社）日本レストルーム工業会等8団体
- ◇後援：東京商工会議所
- ◇お客様動員数：約2,757名（3日間）
- ◇ブース出展：総出展ブース数 26企業（団体）※当協会含む



日本トイレ協会の出展ブース

#### [活動①：ブース出展概要]

- ◇ブースの広さ：3m×3m=9㎡（長テーブル2台&パイプ椅子2脚を使用）
- ◇パネル展示：協会概要、設立30周年記念活動の経緯の写真展
- ◇棚の展示：絵付古便器、絵付トイレトーパー、過去のトイレシンポ概要集、「トイレ大事典」見本
- ◇配布物：協会リーフレット（約800枚配布）、30周年記念誌～協会30年の軌跡～（65冊配布）朝日新聞社 GLOBE～トイレから愛を込めて（200部配布）ほか
- ◇説明員：常時、理事又は法人会員の協力者を1名以上配置して、PRに努めた。

#### [活動②：講演会場での講師コーディネート（4名）]

- ◇「トイレ掃除の現場から ～一日6万人が使うトイレの維持管理と乾式清掃～」  
石川清美氏〔法人会員／中日本ハイウェイ・メンテナンス東名(株)〕
- ◇「公共トイレの建築種別ごとの役割と課題」  
小林純子氏〔副会長／(有)設計事務所ゴンドラ 代表取締役〕
- ◇「外国人観光客のトイレ対策」  
白倉正子氏〔理事／アントイレプランナー 代表〕
- ◇「トイレ診断からみる公共トイレ／公衆トイレネーミングクライツの取組み」  
内田康治氏〔法人会員／(株)アメニティ〕

#### [成果と感想]

1. 「日本トイレ協会」の名前を浸透させる、良い機会となった。
2. 大勢の方が訪問され、協会PR用リーフレットが飛ぶように無くなり、他もかなり減少した。
3. 新体制になって初めての「団体展示」だったが、展示ノウハウを蓄積出来た。
4. 既会員との接点になっただけでなく、新会員になりそうな出会いも多く誕生した。
5. 他企業・団体の展示からも刺激をいただいた。また良い交流の場ともなった。
6. 講演は、どれも好評で動員数も多く、立ち見が出る講演もあった。
7. 第31回トイレシンポジウム（11/14）と近接しており、準備が大変だったが、やって良かった。皆さまのご協力に感謝申し上げます。 （協会理事/アントイレプランナー代表）

## トピックス

### ▼ 山形県西村山郡西川町高齢者大学でトイレ講演 ～ 在京の法人会員企業とのコラボレーション ～



協会へ山形県西川町教育委員会から依頼がありトイレ講演が実現しました。

11月10日西川町交流センター（あいで）において協会推薦の山形県在住の武田元裕会員（㈱クラフト代表取締役社長）が65歳以上のシニア約160名の参加のもと「トイレ四方山話」と題して講演を行いました。

内容は

- 1 日本トイレ協会とは
- 2 「レディース & ゼントルマン」
- 3 江戸時代の長屋の話
- 4 皆さん「トイレを何んと呼んで  
いますか

5 公衆トイレは「街の文化のバロメーター」

7 水洗トイレ「How Much」

9 富士山の白い川

8 世界の25億人がいまだトイレがない暮らし

10 災害時のトイレと山登りのトイレ など協会のPRとともに日頃の蘊蓄を傾けられ、大盛況のうちに終了しました。 なお、この講演に法人会員の㈱総合サービス（新妻普宣代表取締役社長）より携帯トイレを参加者人数分が無償提供され、全員にお持ち帰り頂きました。後ほど事務局に主催者の西川町教育委員会様より鄭重な御礼の電話を頂戴いたしました。

### ▼ 日本経済新聞記事に「トイレ文化を育てる」連載される。

日本経済新聞夕刊（全国版）「広角鋭角」覧に8月31日～9月8日までの間に5回に亘って「トイレ文化を育てる」特集が掲載されました。

日本経済新聞社大阪本社堀田昇吾編集委員執筆によるものです。当協会も取材に全面的に協力、高橋会長の事務所はじめ、ご紹介したトイレ施設や関係者に3ヶ月間にわたり丁寧な取材をされました。「トイレ文化」について日本を代表するマスコミに5回連載で採り上げられたことは、初めてのことであり、それだけトイレに対する社会の認識が劇的な変化を見せている徴候かも知れません。



回数	日付	タイトル	取材協力
1	8/31	女性重視 快適・きれい 高速PA 改装や清掃「改革」	軍記理事 山本浩司会員(Nexco 中日本株)
2	9/1	始まりは「5k」への憤り 日本トイレ協会が啓蒙 うんちく本も出版	山本副会長 佐竹事務局長 高橋会長
3	9/3	自宅は「洋式」学校も 要望聞き改修、利用増える	小林副会長
4	9/7	災害時の運用共有を 簡易・携帯版の備蓄も重要	新妻普宣会員(㈱総合サービス)
5	9/8	憩の空間 日本の誇り 空港・駅でおもてなし	白倉理事

## 理事会経過（2015年11月～12月）

### ■ 第6回理事会

日時 11月2日（月）17時30分～20時10分

場所 ㈱レンタルのニッケン BF会議室

議題

- (1) 第31回全国トイレシンポジウム準備状況について
- (2) トイレおもてなし推進運動について
- (3) 協会リーフレットについて
- (4) 日本能率協会トイレ産業展への参加について
- (5) ニュースリリースについて

### ■ 第7回理事会

日時 12月7日（土）17時30分～19時10分

場所 ㈱レンタルのニッケン BF会議室

議題

- (1) 第31回全国トイレシンポジウム報告
- (2) トイレおもてなし推進運動進捗状況について
- (3) 日本能率協会トイレ産業展報告
- (4) HP問合せフォームの取扱いについて
- (5) 台湾トイレ協会 yu 明国理事長、林副理事長への名誉役員推挙について
- (6) 会則改正について
- (7) 留学生日本語プレ便大会について
- (8) 一般社団法人化の進捗について

### 編集後記

今年度最後の協会ニュースをお届けします。昨年は、設立30周年記念フォーラムの開催、2年間の準備を経ての「トイレ学大事典」の刊行、初の経済産業省後援となった第31回全国トイレシンポジウムの盛況、法人会員の増強など懸案を次々とクリアすることが出来ました。そして協会組織の一般社団法人への移行も射程に入りました。新しい取組みの「グッドトイレ推進運動」も骨格づくりが進捗しております。高橋会長のもとに結集した会員の皆様の活動の成果です。またトイレに対する社会の認識も政府の「おもてなし」施策と相俟って、抜本的な変革のきざしが見えつつあります。

「2020年のその先へ」今年も協会の社会的役割を定着させるよう頑張りましょう。

（広報渉外部会 倉田丈司）

## 日本トイレ協会

JAPAN TOILET ASSOCIATION

URI: <http://www/toilet-kyoukai.jp>

e-mail: [jta-jimukyoku@toilet-kyoukai.jp](mailto:jta-jimukyoku@toilet-kyoukai.jp)

〒112-0003

東京都文京区春日1-5-3 春日タウンホーム1F

TEL 03-5884-6123